

人類共存の大理想
添田寿一著

579

270



0033326000

0033326-000

579-270

人類共存の大理想

添田寿一・著

[添田寿一]

昭和4

AGA

人類共存の大理想

法學博士 添田壽一



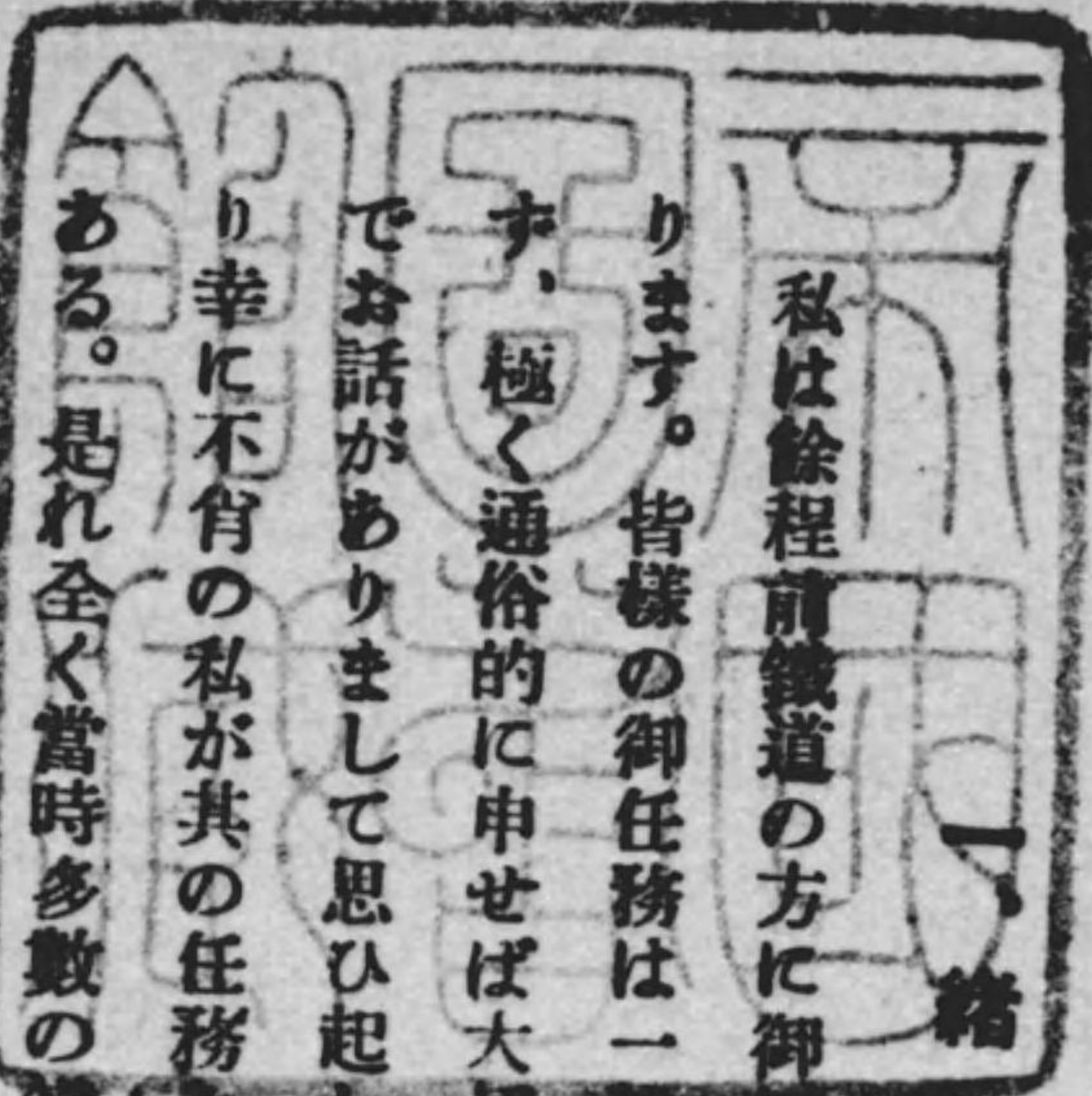
人類共存の大理想

法學博士 添田壽一



人類共存の大理想

法學博士 添田壽一



私は餘程前鐵道の方に御厄介になつた事もあり、皆様にお目に掛るのは全然他人にお目に掛る様な感じは致さぬのであります。皆様の御任務は一般の行政事務と違ひまして、國家の運輸交通行政の上に於て重大なる意味を有するのみならず、極く通俗的に申せば大切な人命をお預りになつて居るのであつて、甚だ重大味を有する次第である。只今も所長室でお話がありまして思ひ起したのであります。此の前大正の御代の御大典輸送に付きましては、關係各位の御盡力に依り幸に不肖の私が其の任務を何等の故障なく奉行し得たと云ふことは、實に感謝措く能はず、一日も忘るゝ能はざる所である。是れ全く當時多數の鐵道關係のお方が一致協力、緊張して其の重大なる任務に總てを集中せられたる結果である。此の度も御大禮の輸送は間近くなつて居りますが、東京鐵道局は所謂其の出發點となられるのであり、又大禮前に行はせらるゝ東北に於ける大演習に付きましても直接間接からぬ關係を有して居らるゝ譯である。何卒各位一層御自愛御努力の上、此度の御大典輸送も以前の如く寸毫の故障なく行はれるやうに御奮勵あらんことを、豫めお願い致して置く次第である。

扱局長に何を申上ぐべきかと云ふ事を尋ね申したるに、何か修養に關した事と云ふ御答でありました。然るに一體私の人類共存の大理想

専門はさう云ふ方面ではない故に、十分に御希望に適ふことは出来そうにもない。色々考へた結果豫て私自から信じて居つて日常實行して居り、所謂唯空談でない所の此の人類共存と云ふ大法則に就いて申上げたら宜からうと考へて、此所に此の題を以て試に皆様に愚見を開陳して見たいと思ふのであります。極く通俗的に御家族方にもお分り易いやうに刷物に極く平易に書いて置きました故に、どうかお歸りの上家族のある方は御家族、友人のある方は御友人にお示し下さるならば幸である。大體は刷物に略々書いてあるけれども、試にそれと離れて申上げて見ませう。

二、衝突か共存か

従來人類は、進化の法則の下にあると云ふことだけは常に申すことである。彼のダーキンの唱へました以來、進化論に就ては一部宗教家以外には強い反對の聲は揚つて居りませぬ。而して進化と云ふことはどうしても生存競争と云ふことを意味する。

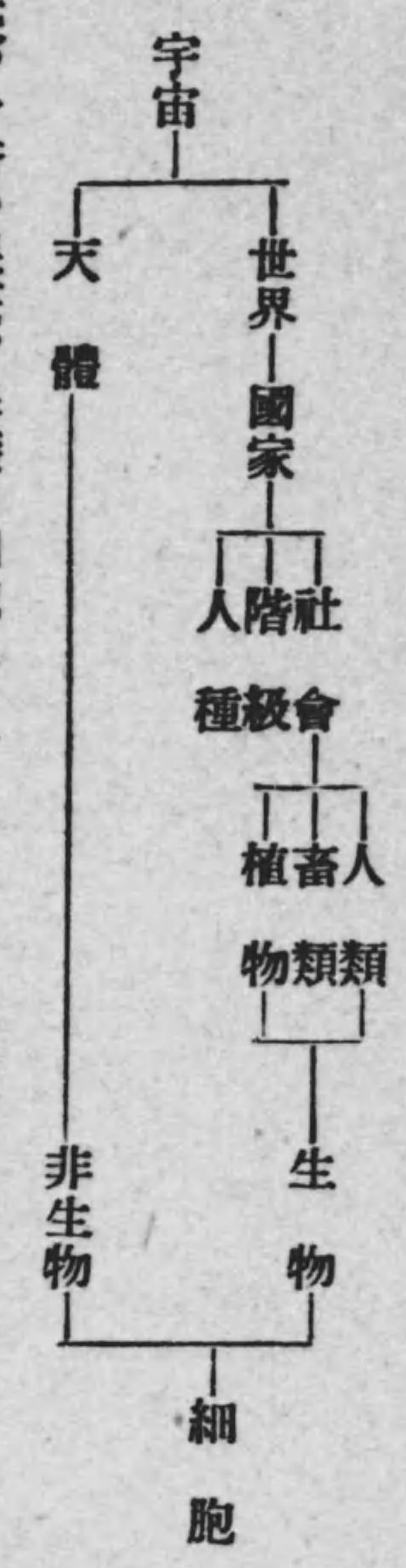
人類と言はず總ての生物は此の生存競争の必要に促されて進化するものであると説き來つて居るのである。併し其の生存競争と云ふことのみで人類其他の生物が進化するものであるか、或は其の生存競争と云ふことが極端に走り悪しき方向に進む結果が、進化にあらずして、所謂退化を來すのではないかと云ふことは問題である。エポリューション(進化)と云ふものは、事實として認めなければならぬとしても、それが所謂極端に走り宜しきを失する時に於てはデポリューション(退化)と云ふ結果に陥りはないかと云ふ事が問題である。此の進化が急激極端なる形を以て行はるゝ状態をレポリューション(革命)と云ひ、而して此の生存競争が主として有形的物質的に偏し、所謂自我的偏狭極端に失するときは多少の弊害を生ずるを免れない。甚しきに至りては遂に各種利害の衝突を招來する。此のコンフリクト即ち衝突と云ふもの

が社會的政治的に現はれ、非常に破壊的にして激烈廣汎なる場合を指して革命と稱するのである。之に反して改善發達が平和穩健に行はるゝのが進化の常道要諦なりと謂つべきである。換言すればレポリューションよりはエポリューションを主とすべくデポリューションに陥らぬ注意を必要とする。併し生存競争上事實發生し易いのが個人、階級、國際間の衝突である。そこで其の衝突をどうして和らぐべきかと考ふることが、進化をして完全に平穩に又有利に行はしむる所以である。此の點が此の進化論の進轉期少なくとも一の轉換期であると云ふて差支がないと信するのである。

例へば彼のオーグスト、コムトと云ふ人が唱へた所のボヂチビズムの目的も矢張衝突防止に存し、又私共の修めて居ります所の經濟學に於ても、バシヤーと云ふ人が所謂經濟の調和(ハーモニー)と云ふことを説いて居らるゝのも此の衝突を避け或は之を緩和したいと云ふ所より出て居る。併し此等の説き方では完全なりと云ふこと能はざるのである。今より申上げやうとする所のソリダリチーの説に依つて所謂衝突の弊害を防止し之を根絶すると云ふ研究は、稍々形を成すに至つたと申上げて差支ないのである。何れも佛國の學者の唱へ出した所でありすが、詰り幾分佛國の地位が此の衝突を恐れると云ふ國柄であるよりして學説を茲に導いたものと思ふ。兎に角主に佛國の學者の唱へ始めたことであるが故に、英吉利若くは獨逸に屬する所の學説の方が多く我が國に行はれて居る結果として、餘り今まで皆様の耳目に觸れなかつたかも知れぬが、私は不束ながら聊か研究した所を述べて見ませう。此のソリダリチーを、一般に今日では共存共榮と譯して居り、或は社會聯帶或は利害共通、或は共同責任主義と譯する者もある。其のソリダリチーと云ふことに付き、私の研究し實行したことを申上げて皆様の御参考に供するのである。固より誤つて居る所があるかも知れぬ、又御不審の所もあるかも知れぬが、私が話を終りました後に於て、駁撃なり質問なり十分お出し下さることを歓迎する。動もすれば講演とか云ふものは唯話し放し聞き流しで終るやうで、お聴きになつた方にどれだけの効果があつたかと云ふことが、一向判らず

にしようと思ふ場合が多い。局長の御趣意も其所にあらうと思ふ故に、若し研究の價値ありとお認になりましたならば、私の話の終りました後に於て、諸君のお考を承りたいのである。

此のソリダリチーの原則の因つて起り、法則の因つて起る所以は斯う云ふ點にある。



先づ一番の根底、基礎は細胞（セルス）である。其の細胞の以下に更に土臺となると云ふものありとするならば別であります。今日までの生物学、醫學上の研究に依る最小、最低度の基礎は、此の細胞である。それが或は非生物の靜的細胞となり或は生物の動的細胞となり又は人體の細胞となる。例へば私の髪の毛になつて居る細胞より足の先の爪になつて居る細胞に至るまで、形は違ふけれども總て生物非生物を論ぜず此の細胞に依つて成立たないものはないと云ふことは、是は別段精しく申上げる必要はないと思ふ。唯細胞の形が非生物と生物とは大に異なるけれども、兩者共に細胞の集合したるものなることは同一である。

今より主として人體に關係したことをだけ申上げれば、大別してそれが肉體的となり又精神的となつて働き、人體を組織するのである。此の人類を細胞として社會國家が生じ、國家を細胞として世界が存し、地球其他の天體を綜合したるものが宇宙である。斯く觀察して總て此の宇宙は所謂細胞組織に依つて成立つて居ると申上げて差支ないのである。人類が細胞で組立てられて居る如く、社會は又人類と云ふ細胞に依つて組立てられ、國家は即ち國民と云ふ細胞に依つて成立ち

世界は此の列國と云ふ細胞に依つて成立つて居ると申して差支ない。世界若くは地球と云ふ所の一つの天體は、他の天體と共に宇宙に對しては細胞的關係を持つて居ると云ひ得る。併し此等は餘程敷衍した話であるが故に正確適切を主として人類だけに付き考ふるならば細胞の働が十分に證明出来る。お互の身體が細胞に依つて成立つのみならず、細胞の健全なる間がお互に健全なのである。人體が衰へると云ふことは細胞の衰弱したる時である。細胞は晝夜間斷なく、働きお互の身體を健全に保ちつゝある。健在して居るのは、全く細胞の絶へざる活動の結果である。細胞が其の活動を停止する時、即ち局部的に停止すれば局部の麻痺となり、全體的に停止する時が即ちお互の死亡する時である。お互の死期が近づけば細胞の活動が鈍ぶる。けれども心臓の周圍にある細胞は最後まで奮闘する。醫者にお聞きになれば判る心臓の鼓動の止んだ時が完全に死した時である。最後まで心臓の周圍の細胞は其の活動を止めないと云ふ位に、細胞と云ふものはお互の身體の爲めに非常なる働を爲して居る。極く分り易い實例を以て示せば、負傷をして細胞を傷け出血すると其の最寄の細胞自身が寄集まり傷口を癒す爲めに非常の努力をする。若し外部より有害なるバチルス、細菌が入つて其の細胞の力以上に發展せぬ以上は出血も止まり傷口は自ら癒るのは皆様御經驗があらうと思ふ。早く手當をして其の細胞に聲援を與へて、其の治す力に援助を與へることを怠るときは、有害なる細菌が攻め入り好機措くべからずとして其所に侵入して、遂に細胞を征服する結果、到頭出血が止まらず甚だしきに至りては、全身に其の有害なる病毒が擴がり遂に僅な負傷の爲にも一命を落すことになる。是れ健全なる細胞が病的有害なる細菌の爲に征服せられる結果である。故に如何に細胞と云ふものがお互の健全の爲めに努力するかと云ふことは明白であつて、一點の疑を容れない所である。さう云ふ所からソリダリチーの法則が発生し、部分は全體の爲に存在す全體は又其の部分の發達健全に努めなければならぬと云ふ結論に到達する。全部は一部の爲に、又一部は全部の爲に盡すと云ふ關係に依りて結ばれて居ると云ふのが、即ちソリダリチーの原則の因

人類共存の大理想

つて起る根底である。故に此のソリダリチーの原則を否認せんと欲せば、此の細胞組織と云ふものを否認せねばならぬ。此の組織観と云ふものが過つて居るとするならば、イザ知らず、苟も此の關係を認むる以上はソリダリチーの原則は牢固として抜くべからざる眞理であると云ふて差支ない。即ち全體と一部とは互に利害の一致共通と云ふことに依つて結付けられて居るのである。故に衝突と云ふことは正當には起るべからざることであり、又許すべからざるものであつて不當例外の病的現象と見るべきである。茲に於てか今日色々行はれて居る所の衝突に基礎を置く所の學説とか、主義とか云ふものが、總て誤つて居ると云ふことが出来るのである。詰り此の利害の一致、調和、共益が總ての生物存在の目的理由である。若し之に反して衝突殊に衝突の結果として免れ難い破壊と云ふことが若し眞理でありとするならば、生存とは相容れず兩立しないのである。破壊と生存とは兩立し能はざる以上、又生存とは兩立し能はざる以上又生存と云ふことを認めるとは生存の競争に基因するけれども、生存が目的である以上は互に相益すると云ふ意味の競争でなくてはならない。其の競争が衝突と云ふ形になる時に於ては、既に生存の目的に反するのである。

要するに衝突と云ふことは變態であつて、此のソリダリチーの上から見れば病的である。生存の正當に完全に行はれる場合に於ては、衝突と云ふことは原則常態として認めることは出来ない。是が即ち第一此のソリダリチーの原理より生ずる結論である。

三、沿革と現状

今より少しも沿革並に現状に付て、此の法則は如何に人類に依つて取扱はれて居るかと云ふ事を考へて見たい。詰り人

類は無論生物であるが故に、生存慾と云ふものを第一に備へて居る。生れた許りの赤ン坊と雖も生きる爲には乳を求め、苦痛は泣いて之を訴へる。總て人類として生存慾を有せざるはなく、之が充足に努力するのは云ふまでもありませぬ。故に人類の働きは生存競争と云ふ形で現はる。彼の野蠻人は獨り禽獸を倒して已の生命を保つたのみならず、甚しきは其の食物の缺乏せる場合、食物を争ふ場合に於ては、他の人類殊に他の部屬に屬するものを殺しても、其の生存慾を充たすと云ふこともある。即ち弱肉強食と云ふことを以て十分に之を云ひ現はすことが出来る。原始野蠻の時代に於ては衝突と云ふことは非常に屢々行はる。一方には天然力と戦ひ又更に禽獸と戦ひ更に食物の不足の場合に於て、種屬互に相争ふと云ふ状態が原始野蠻蒙昧の時代に於ける所の状態である。此の場合に於ては成程生存競争が激烈であつて、衝突と云ふことは全體を支配する現象であると思えるでありませう。併し段々人類が發達して参りますと其の衝突と云ふことを和らげる爲に酋長と云ふものを設けて、争ひの裁定をなすと云ふまでに進む。それは同一部屬内の生存競争が非常に激甚に行はるゝ弊害を幾分避けんと欲する念が生じた爲めであると同時に、他の部屬に打勝つと云ふ上に於て、統一せられたる力を以てしなければならぬと云ふ、多少統一の必要を認めた爲めでもある。更に進んでは酋長も其の部屬に對しては今日云ふ所の法律裁判刑罰等の權力を以て、犯す者に制裁を加へ、他の酋長とも和議を講じ内外俱に極端なる衝突と云ふものを和らげると云ふ作用が、所謂部族政治と云ふ形に依つて現はるのである。而して段々人類の慾望が發達して参り、それと共に人類の所謂知能と云ふものも進歩するに従ひ、治安防衛の制度も段々發達して來るのは言を俟たぬ。遂に部族が國家となり、完全なる一つの組織的オウガニツク、ステート即ち有機的國家と云ふ程度に達すれば所謂不當不法の衝突が防

法的範圍に於て行はるゝに至るのである。單に政治經濟制度許りが變化するのみならず、學說も段々變遷する。固より學說は制度若くは社會狀態の產物であるが故に、どうしても時勢と離るべからざる關係を有する。私共が修めて居る經濟學の上から申しても、學說は色々變化した。固より原始時代に於ては、學說として見るべきものはないけれども、農業時代には農本主義即ち農業に重きを置く學說が、勢力を有するに至つた。我國固有の經濟學說は御維新までは、我國の經濟組織が農業本位であつたが故に、多くは農本主義の學說のみであつた。それから段々商業が發達して參り商業主義、更に外國貿易と云ふ程度に進んでは、自由貿易主義とか保護貿易主義と云ふ色々學說が起る。更に進み工業時代となつて資本制度が一層發達して、所謂資本主義又その反動として社會主義も起る。是は勞働を本位として居る故に勞本主義と見ても宜しい。總て其の社會や時期の必要に依つて學說の重きを置く所が異つて來ると云ふのは、是は學說も時代の產物たる以上は已むを得ざる事柄である。更に進んでは最近世上に唱へらるゝマルキシズム、レーニンズム更に甚しきは福本イズムと云ふものも生じて居るが資本主義に反抗して勞働に重きを置くものである。勞資双方に分れて陣地を張り互に對峙して相争つて居るのが現状である。是に於て此の間學說に於ても實際に於ても衝突と云ふことが免れない有様である。マルキシズムは御承知の通り生産と云ふものゝ非常に變化を來し、變化と云ふよりは殆ど革命を招來せりと云ふより起つて居る所謂産業革命に依つて一大變革を來した以上は、其の生産の要素、即ち生産に與る所の各機關殊に分配の上に於ても、變革が來らなければならぬと説くのが即ち此の唯物史觀の論旨である。其の變革をなすにはどうしても平和の手段ではいけない。即ち革命的手段に依らなければならぬと云ふのである。レーニンズムに至つては一層極端に走り所謂勞働デクテーターシップを以て共產主義的革命を斷行し總てを根底より轉覆し全世界を共產主義の下に置かなければ其の目的が達せられぬと云ふのである。或は專制政治の弊害に惱まされたる露西亞に於きましてはイザ知らず、其の以後の各國に於てさう

云ふ極端なる手段に出ですとも平和なる合理合法的手段に依つて、正當なる目的達成の途はある。殊に露國の爲めに之を唱へる許りにあらずして、自國に其主義を行はなければならぬ爲に、それを全世界に行ひ所謂世界的革命を唱導するに至つては、非常なる誤であるのみならず、他國に取りては迷惑千萬である。國內階級間のみならず國々の間にも利害の衝突から所謂國際の生存競争と云ふことが屢々行はるゝ。封建時代や歐羅巴の十六七世紀頃の戦争と云ふものは、君主、宰相一部軍人の名譽心、利慾の爲めに國際戦が行はれた。今日に於てはさう云ふ一部少數の人の利害のみに依つて國際戦争と云ふものは起らないけれども、國民の生存即ち國民的生活の必要から國際戦争と云ふものが起るやうになつたと云ふことは、大に着目しなければならぬ。其の國際戦と云ふものは、共和政治の如くデモクラシーの制度の下にあつては行はれまいと考ふるならば甚しき誤である。共和政治は愚か極端なるソビエツト政府と雖も國民生存政策上所謂帝國主義甚しきは他國に向つて侵略政策を棄てないと云ふ事實に徴すれば、國民生活の保全の爲めに國家の政策が立てられ、又國際の外交が行はれ、利害衝突の結果は遂に國際戦になると云ふことは、今日の形勢に於て免れざることが明白である。歐羅巴戦争なるものは私が巴里會議から歸りまして屢々方々でお話申上げて、各位の中にもお聞きになつた方もあると思ふ故に繰返さぬけれども、畢竟英吉利の平和若くは經濟的帝國主義と獨逸の軍事的帝國主義との衝突に過ぎないのである。尙ほ一層碎いて申せば、獨逸の國民生存競争と英國の國民生存競争の衝突であると申上げて差支ない。故に今日の國際戦なるものは、全く各國々民間の生存競争より發生するものであると斷定して可なるのである。人類も歐羅巴の大戦の慘害に懲りたる結果、巴里會議に於いて國際聯盟と云ふ、國際衝突緩和機關を作る事になつたやうな次第である。けれども御承知の通り此の機關は未だ十分鞏固有力なるものとは云はれぬ。又其の後開かれた華盛頓會議も標榜は非常に偉らかつたけれども、遂に僅かに海軍縮少會議となつて仕舞ひ、山東還付、更に進んで日英同盟を葬り去つたと云ふ以外、世界の平和に貢

獻することは、其の標榜の大なる程ではなかつたと云ふことも御承知の通りである。其の後最近開かれたジェネヴァ日英米の三國海軍縮少會議と雖も、英米の衝突に依つて完全なる結果を見るに至らなかつたことも、皆様の御記憶に新なるところである。最近開かれて巴里に於て調印せられた不戰條約と雖も尙ほ一つの原則的宣言に過ぎないのである。況んや北米合衆國は其の宣言と正反對に七十隻の戦艦を造ると云ふ軍備擴張案すら計畫して居ると云ふが如き状態である以上は、まだ一世界の軍備競争と云ふものは繼續するものと見なければならぬ。

更に人種間にも生存競争が行はれて居るが、之に就ては、時間がない爲に省略すべきも、白人種と有色人種間の生存競争が激甚に行はれて居ると云ふことは争ふべからざる事實である。今日と雖も尙ほニグロースに對する所の迫害の熾烈なるは有色人種に對する待遇の不當なることを示すに餘りがある。尙ほ移民問題等に付きては色々理由が列擧されて居るが、矢張人種觀念が差別的立法となつて現はれて居るのみならず、白人種の自我的僻見たるを免れないのである。

斯くの如く各方面を見れば色々衝突が盛んでありますが、最も今激甚を極めて居るのが此階級闘争である。階級闘争の事實は周知されて居る故に精しくは述べぬが、之は決して今日始まつたものではありませぬ。歴史の事蹟に徴するに酋長と部下、治者と被治者の間に衝突があり、有産者と無産者間の衝突は餘程以前より行はれて居る。或は宗教上の階級や貴族の如き特權階級と然らざる者との間にも衝突は繰返へされた。資本労働の衝突も従來行はれたが、今尙ほ解決を得ざるのみならず、我が國に於きましても今や益々激甚ならんとする現状を呈して居る。事の茲に至りたるに就ては制度も大に誤つて居るけれども、學說も亦責任がある。一種の學說に依れば、此資本労働間の衝突は實際避くべからずと云ふのであるが更に進んで必然的の衝突すべきものであると説くに至つては、上來陳述せる如く大に過つて居ると信ずる。或は變態的例外的現象として免れないかも知れぬ。或は一時的のもの若くは部分的の問題としては止むを得ないかも知れぬが、

之を學說上の原則であるかの如く説くに至つては、甚しき誤謬なりと謂つべきは既に述べました如くである。併し實際此の衝突の問題に今や何れの國も悩まされて居り、就中我が國に於て刻下此の問題が注目されて居る故に、少しそれに就て卑見を申し上げて見やうと思ふ。先づ我國は如何なる經濟状態であるかと云ふことを考へねばならぬ。甚だ困つたことには一面からは未だ農業時代に居るに拘らず、一方に於ては既に工業時代に進んで居るのである。固より其の二つを結びつける所の商業は國內的より更に進んでは國際貿易にまで發達して居る。農業時代に在ては階級闘争の發生する場合が尠くない何故ならば此の土地から生ずるものを、地主小作の間に分つて致しても、是は實に單純なる問題であつて、其の年の豊凶に依つて多く分けるとか少く分けるとか云ふ位の問題に止まる。單純な小作料の上げ下げと云ふ以外に於ては、此の農業爭議に於きましては、面倒なる問題は餘り多く發生しない。然るに一度工業時代就中産業革命により資本勞力が集中さるときは、資本労働の衝突と云ふものは、單純に片付けることは出来ないで頗る複雑激甚となる。彼の農業時代に於て見るべからざる時間の問題、衛生、傷害防止、疾病老衰、失業等と云ふ如き問題は頻發する。就中失業即ち職を離れると云ふことは農業時代には殆ど起らないのである。唯耕してさへ居れば何ものか生産し、生存に困難は感しない。然るに一度産業革命(インダストリアル、レポリューション)により勞資が集中せらるゝや、例へば世界的不景氣に襲はるゝや、直に無数の失業者を生ずる。斯くの如きは、農業時代に於ては見る事の出来ない所の新現象である。其の他資本家労働者の利害衝突は種々なる形を以て現はれ、其の及ぶ範圍といひ其の深刻さといひ名狀し難い程である。殊に我が國に於ては他の國に於て工業地方に限られて居る工業労働爭議か小作爭議の形を以て全國的に行はれて居るが、之は他の國に於ては餘り類例を見ざる所である。此點より考ふるときは我が國は社會問題に就いては他の國より一層憂ふべき状態にあるといふことを申上げなければならぬ。故に最も緊要なる問題は今後如何にすべきかといふこと、即ち矯正策如何といふ點である

四、弊害矯正策

今より此の弊害矯正策に移るが、根本はどうしても個人に存する。人類と致しては今まで或は學說であるとか倫理說であるとか、或は宗教であるとかに依り、自我的僻見を制止され来たけれども、動もすれば共存の原則を無視して、自我物質的の利益のみ囚はるゝといふ弊害に陥り易い。倫理宗教の種類に至つては、數限りない、故に一々其の批評をすることは見合するが、中には大に敬意を拂ふべきものもあり、今日と雖も大に其效驗を認めなければならぬものも多々ある。けれども宗教倫理說の中には今日變化せる人類の状態、人類の思想に對して尙ほ満足を十分に與へ得ないものなきを得ない。或は人類が未だ變化をなしつゝあり即ち進化の中途にある所の部分的觀察基礎に基いて起りたるものなる結果であるかも知れない。人類の最も進んだる所の最後の程度に着眼し所謂全般的觀察に基づける根本普遍的な大法則とも謂つべきものならば、現代の要求に應ずることが出来ないのではないかと思ふ。果して然りとせばどうしても此所に一つ新なる原理理想の必要が生ずる。事實日本許りではありませぬ、大戦後世界全體が思想の變化に悩んで居ると云ふ以上は。在來の治療法在來の藥では其の病が治されないと云ふ證據ではないかと思ふ。但し在來のものとも雖も全然棄てはならぬ。其採るべきものは尊重保存すべきは勿論である。在來のもののみにては満足せざる人々に對し完全に近きものを以て人類の思想を善導すると云ふより外に策がないと思ふのである。其の一としてソリダリチーを提供して見たいと考へる。之に依るときは今日各方面に現はれて居る缺陷を補ふことが、出来ると思ふ。個人に在ては細胞と云ふものを、十分に健全にすることを全體としては努め、又細胞は其全體の爲に十分なる活動する事に依つて此所に一つの完全なる個人と云ふものが出来る。之を指して個人完成(インデビジュアル、パーフェクション)と云ふのである。先づ個人を完成するにあらざれば

其の以上の市町村とか國家社會とか列國とか世界とかの完成を望み難い故に、個人完成と云ふことが第一要義である。個人の完成は細胞の健全に俟たねばならぬ故に、細胞が總ての根本である。此點より考ふるときはお互は自己に對しても責任を負ふて居る、換言すれば細胞を健全にする義務を負担して居る。少なくとも親から譲られた身體を健全に保つ義務がある。或は親の病氣を遺傳したときは致方がないやうなれども、それすら自分の努力では随分救治することが出来る。況んや親から健全なる身體を譲られたるにも拘らず、自己の過失不攝生若くは不品行のために之を傷害するに至つては第一の義務を怠るものである。殊に最も細胞を害するの甚しきは花柳病である。即ちさういふ事に依つて自己の細胞を害することは、先づ自己に對する責任義務といふものを、無視するの甚しきものである。

自己に對する義務を完全に果すには總て有形無形に自己を組立て居る所の細胞を健全ならしめねばならぬ。此の細胞を害さない即ち自己の細胞を大事にするといふことだけすら出来ない、即ち自己に對するだけの義務を履行し得ないと云ふことであつては、到底他の義務を果すことは出来ない。何故ならば病身であつては何等の仕事も出来ない。又精神に異狀があつては何事も託する譯には参らぬ。自己の身體を健全にする位の義務責任を實行し得ざる者に向つて、他の義務を果して貰ひたいといふ注文をするのは無理な話である。古語にもある通り身體髮膚之を父母に受く敢て毀傷せざる者は孝の始めなりといふのは實に名言である。此頃新聞を見ますると無暗に水死したり毒を呑んだり首を縊つたり、何んでそんなに自己の體を厄介にするのでありますか。一人前に成長するには、非常に資本が掛つて居る。父母國家社會に對し、借金を背負へるだけ背負つて、今から返へさうといふ時に死んで借金を踏倒されたら、社會國家は甚だ迷惑千萬である。華嚴の瀧を掃除するのに困るといふ程投身する人が多いといふに至つては、何たる馬鹿氣なことでありませう。尤も日本は人口が多過ぎる故に幾らか助かるといふか知れませぬが、毎年百萬近くも殖える人口を何千人といふ少數の自殺者で差引す

る譯には参らぬ。或は百萬人投身者があれば差引が出来るかも知れませぬが、百萬人も死なれたら各所の瀧壺も埋つてしまひませう。

自己に對する義務を完くして、後に第二の家族に對する義務が生ずる。早晚家庭を作るのは是は人類の使命である。或は獨身で暮す人もあるけれども例外でありまして、一家を支へ得る地位に達してから家庭を持つといふことが人類繼續の爲に必要なのみならず、自己の能率を完全に發揮する所以である。能率に必要なものは榮養と休養と修養であつて榮養は食物成は衣服、休養は主に住宅で行はれ、修養は精神に無形の食物を與へることである。此の三ツはどうしても家庭でなければ完全に行はれるものではない。下宿屋でも出来ない事もないが、完全なる修養休養榮養の場所は家庭である家庭を設くる以上は家庭に對する義務が生ずる。我國では之も甚だ今日怠り勝である。家庭を持つたが後の始末を親類や社會國家に頼むといふに至つては是は甚だ無責任な話である。自己の家庭は自分が養ふといふ位の、責任感がなくては一般は甚だ迷惑する。一家を十分治めて初めて第三の市町村の如き自治體に對する義務を盡すことも出来る。更に進んでは第四の國家社會に對する義務を盡さなければならぬ。此等の義務を爲したる上は自國のみならず第五の世界各國の爲にも、第六の人類全體の爲にも盡さなければならぬ。斯くの如く自己より人類へといふ風に、お互の義務の範圍は擴がる。先づ自己より始め順次成るべく多くの義務を盡すのが人類の本分を完くする所以であつて、多くの義務を果す人ほど尊重すべきである。斯く人類は下は細胞より上は國家、社會、世界に對して非常に重大なる負債を負ふて居るのみならず、第七の宇宙、自然力にも負ふ所頗る多大である。例へば太陽の光は電光燭として計算したならば何千萬燭であらうか。毎日無代で頂戴して居るが、若し天道様から仕拂を要求されたならば身代限りをしなければなりません。兎に角宇宙全體から受けて居る恩恵は殆ど計算し難き位である。或はそんな借金をした覚えはないと云ふ人があるかも知れませぬが、さう云ふ人

に於ても両親の恩と云ふこと位は認めらるゝであらう。凡そ俺は親から生れたのではないと云ふ人はない筈である。両親がお互を育て上げるまでの辛苦と云ふものだけでも、到底金銭で計算することは出来ない、一寸看護婦をお雇になつただけでも驚くべき書付が来るではありませんか。両親が寒いにつけ暑いにつけお互の爲に夜の間も寝ないで育成した、此の恩はどうしても忘却することは出来ないのである。

斯く考へ来れば人類は嫌でも義務の主體であります。生れるから負債を背負つて居るものである。之を返へさずして而も自から己を殺し借金を踏倒すと云ふに至つては、實に一大罪惡であると申上げて宜しい。民法を調べてもさう云ふことは法文にないと云はるゝかも知れぬが、是は人類が自然に負ふ所の債務である。故にどうしても之を返へせるだけ多く返へすのが人類の本分を完くする所以である。然らば債務をどうして返すべきかといへば、百方働いて返すより致方がない寝て居つたり、遊惰、坐食、殊に病身であつては一文でも返すことは出来ない故にどうしても精神的又は筋肉的の活動に依らなければならぬ。其の活動の方面即ち職業任務は違ふけれども總て努力するといふことに依るにあらざれば返済することは出来ない。茲に於てか第八の職務に對する義務も亦尊重しなければならぬといふことになる。更に廣く言へば腦力筋力の何れを以てするを論ぜず労働といふことを尊重しなければならぬといふことになる。是れ労働萬能といふ所以である。況んや働けば心身俱に健全になる。何が故に健全であるかといふと、細胞が健全なる發育をなすからである。早い話が著しき例を上ぐれば、寄生虫就中蝨はピッタリ馬の胃袋に喰入つて、血液の滋養分を唯吸ふ許りである故に眼も要らぬ鼻も要らぬ、手足も要らない、喰付いて吸ひさへすれば宜い、結局發育するものは口のみで全體が口であつて口以外の機能は必要を失なつて居る。即ち用ひさればお互の感能は減してしまふのである。詰り早い話が男の乳房は飲ませる必要がないから小さくなつて居る。即ち用ひざるものは萎縮するといふことが自然の生物の進化的原則である。反對にそれを言

ひ現せば發達せんと欲すれば用ふべしといふ原則を生ずる。故に有形無形何れの方面を問はず、働くといふことがお互の機能を完全に發達させる所以である。働くといふことは自然の命令であつて、働くといふことは神聖であります。換言すれば職業といふものに、貴賤高下の別はない。何の仕事が賤しいとか、何の仕事が甚だ高尚であるとかいふやうなことは識者の言ふべきことではない。汽罐の中に石炭を入れて居るといふ瞬間には非常な貢獻が行はれて居るが故に、其の勞働は甚だ尊重すべきである。如何に高位高官に在つても無爲贖職であつては毫も貴ぶべき所がない。大小の各義務を果すといふことは人類の本分であつて而も天職であるが故に、義務遂行を専一とし妄りに權利如何を考へる必要はない。權利をそれでは認めないかといふと、權利は義務を履行することに依つて當然附隨して發生するものであると答へるのである。權利のみを求めて得らるべきものではない、權利は義務を完ふしへすれば當然附隨して發生するものであると考ふべきである。何故ならば若し義務を果さずして權利許り望んでも到底目的は達せられぬ。働かずに俸給を呉れと言つて誰が與ふべきや、怠けて居つて俺を昇給させろと言つたつて誰が應ふべきや。之に反して一生懸命に勤勉努力、熱誠忠實に職務に勵精なれば、十目の見る所十指の指す所、必ず其の人の地位なり信用なり又収入なりといふものは、段々高まつて行かなければならぬものである。故に妄りに權利を主張する勿れ、義務を先づ全ふせよ、權利は自から附隨せんと斷言する。併し世の中は實際左様ではない、忠實に働いても功勞を認められぬといふやうな場合があると致しましたも、それはどうかの間違がある爲で、決して長くは續かぬものである。假りに骨折が一時認められぬとしても差支ない何故差支ないかと言へば自己の本分を盡し負擔して居る所の借金を返へしたといふことに依つて、既に十分な報酬を得て居るからである。随分不平不満を抱き不遇を嘆く人が多いけれども、相當に自分の本分を盡して居れば是程有難いことはない筈である。何等盡す所なくして名譽とか地位とかを望むのは間違つて居る。自我一方で義務を後にして權利のみを要求するより總て

の不平不満が發生する。煩悶とか不平とかいふことはソリグリチーの原則が十分諒解されて居れば起る餘地がないのみならず、愉快に一生を送ることが出來、圓滿に周圍に接することが出來て自己の幸福は勿論、他と衝突することもなく更に進んで周圍の人にも裨益することが出来る。茲に於てか幸福が自己に宿るのみならず、自己より周圍に周圍より國家社會全體に及ぶといふ所の好ましき結果は、逆も他の手段に依つて完くすることは出来ない。幸に各人が忠實熱誠に此の法則を認め之を實行するならば總て個人間の罪惡は根絶せられ、自殺、他殺、盜賊の如きも其跡を絶つに到るであらう。今日各國を備まして居る階級闘争の如きもソリグリチーの原則を無視し之に反戻する結果であるが故に、若し此の原則が實行せらるゝならば所謂各種の社會問題等といふものは總て解決することが出來、有ゆる階級闘争も根絶せらるゝことは疑を容れない。既に述べたる如く地主と小作人の利害、資本家と勞務者の利害、雇主と被雇人等の利害關係なるものは、結局は一致すべきものである事も了解せられ、殊に一致せしむるやうに全力を傾倒すれば、到底其處に衝突すると云ふ餘地はない譯である。間違つた考や學說に捉はれ是非衝突しなければならぬと云ふならば己むを得ぬけれど、衝突して何等利益があるか、又果して目的を達し得らるゝか。工場労働者が同盟罷業を一方でやれば工場主はロツタアウトで締出しを行ふ小作人同盟があれば地主同盟が起る。双方争ふ結果は田地を荒してしまふことになり、誰も益せず双方共に損をする。地主小作人が損をするのみでなく、お互米喰虫が困り社會全體の損害となり結局は共弊れに終るのである。彼のイソツプ物語にもある胃袋と手足の喧嘩が明かに之を説明して居る。胃袋は少しも動かさないで甘い物を食つて居ると云ふので手足が同盟罷業を行つた。胃袋は怪しからぬと憤慨して手足が食物を運ぶことを停止した同盟罷業の結果段々腹が減つて全體が到頭死ぬことになり胃袋も死んだけれども手足も共に死んだと云ふ話がある。是は實に明に此のソリグリチーの原則を通俗的に云ひ現はしたものである。故にどうしても衝突なるものは、變態的で有害で病的であると云ふことは明白であるか

ら此の變態を避けて互に一致點を見出し利害の調和を圖り階級的衝突闘争を防止する事が緊要である。此の所に根據を置くにあらざれば如何に法律を設け制度を改めても、根本から階級闘争を一掃することは出来ない。畢竟人間の精神の置所が變らなければ今日の社會問題を根底から改善することは出来るものではない。

次に國と國との間に於ても今や不戰條約までも結んでも軍備擴張論が起つて居るといふ状態である以上は。如何に國と國との間に條約とか協約とかいふものを作つたところで、ソリグリチーを無視し生存競争が激烈となり戦争に訴へてまでも慾望を達せねばならぬといふ以上は、國際の平和は保たれない。況んやデモクラシイの時代に於ては輿論に依つて國政が行はるゝ。故に各國民の頭が變らぬ以上は、國際間の平和を維持することは出来ない。素より平和を目的とする國際聯盟も、列國會議も不戰條約も甚だ結構である。けれども更に心のデスマメント即ち精神的軍備縮少が行はれなければ實効は少ない。最近のゼネヴワ一の三國軍縮會議に於て、日本が調停の役に立たうとしたにも拘らず、英米の衝突で到頭纏りが着かなかんだ。屢々國際聯盟で軍縮準備會議を開き、最近には不成功に終つたが露西亞から軍備全廢論が出たのである。併し假に軍備全廢を約束しても、それで國際戦が止むかと云ふに、若し喧嘩をしやうと思へば、刀が無くとも拳一つで叩き合ふことが出来る故に矢張駄目である。軍備縮小が駄目ならば軍備全廢は尙ほ駄目である。詰り人類の精神が一變し衝突を避けてソリグリチーで進むやうに善化するにあらざれば、國際の平和を恒久的基礎の上に置くことは、望み難いのは明白である。

更に人種の衝突に想到しては實に深く憂ふべきものがある。何故ならば一方には我が國の如く殆ど彈ち切れるやうに人口が年々殖え、此の儘で行けば殆ど立つて居る所も無くなつてしまふか知れぬ。他の一方には空漠たる原野を控へて耕す人がなくて困つて居るといふ米國の如きもある。然るに種々理窟を付けて、我が國から移民を企つれば人種が異なるとか生活の程度が低いとか、風俗が違ふとかいふやうなことで移民の制限又は禁止を行ふ。斯くては公平なる見地よりして人類生存權といふのが、正當に認められたと思ふことは出来ないのである。不正不當なる差別的自我的制限を楯にして、斯くの如き不公平なることが、人種の差別に依つて行はれて居るといふことは、到底永久に行はるべきものではないと思ふ。若し一方に於て白人種なるものが非常なる專横を極める結果、他の一方に有色人種なるものがそれに對抗するといふことになつたならば果して如何であらうか。若し双方が生存の爲に相争ふやうな時機に到達したならば人類は如何になるであらうか。好し其の到來は遠い將來としても一方は五億五千萬以上を算する白人と、十二億以上に増殖せる有色人種とが双方に分れて相争ふことになつたならば、其の惨害は逆も歐羅巴大戰所ではなからうと思ふ。世界大戰に止まらずして人間の大戦争となる。果して然らば其の惨害たるや測知し難く文明は變じて暗黒となり文明の破壊人類の全滅を招來するかも知れぬ。實に是は人類の將來に取つての最大問題である。此の惨害より人類を免れしめむと欲せば、矢張ソリグリチーの法則を採用し之を實行するより他に良策はないと信ずる。

五、結 論

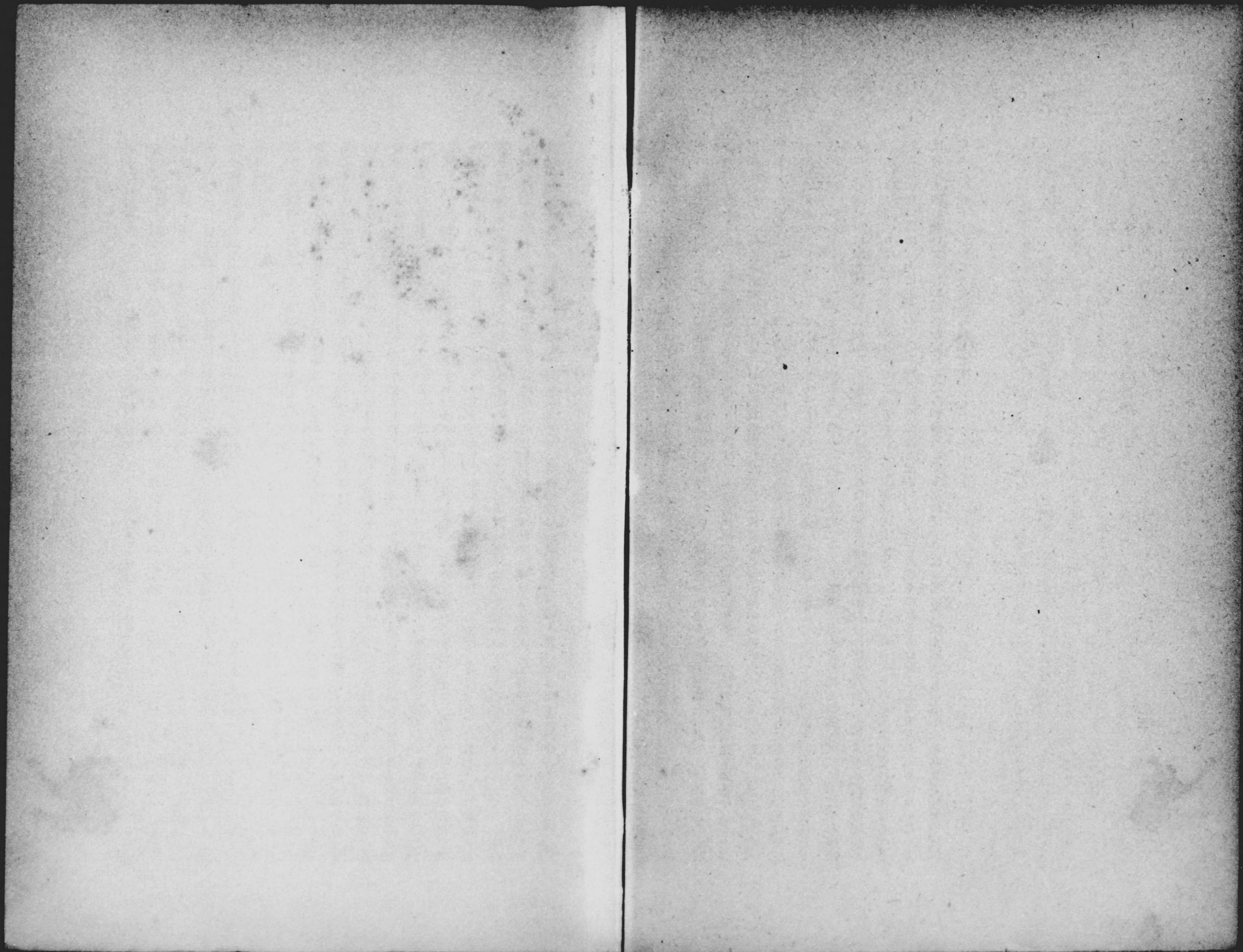
最後に我國の現状如何を考へて見たい。到底今日の狀態ではお互は總ての方面に於て満足を表する譯には參らないと思ふのである。或は政治經濟、或は社會思想、總ての方面に於ける所の日本の狀態は、實に今や安定を缺いて居るといふことだけは申上げて差支ないと思ふ。今日は政治論などなすべき場所ではないが故に差控ふるが、此の大體不安の狀態に包まれて居る境遇より如何にして脱却し得べきか。果して憂ふべき状態であるとすれば、此の狀態からお互自から許りでなく同胞をも如何にして一人たりとも餘計救出することが出来るかと、云ふ問題は勘考せねばならぬと思ふ。それには色

なる方法もありませう。各種の専門的見地から論じましたならば、なか／＼日も尙ほ足りないでありませう。併し大體今日の現状に陥つた原因は何れに歸すべきかと言へば、要するに日本國民に一定の理想が缺如して居る爲めであると思ふ。一定の理想、信念、信條といふものを缺いて居る故なりと信ずる。放縱無責任其の日暮しの盲滅法の行當りバツタリで、自分一人さへ宜ければ他はどうでも構はぬといふやうに下劣陋劣なる自我的自己享樂主義に驅られて居るといふ非難は免れ難いと思ふ。就中責任義務といふ考は非常に薄くなつて參つて居る。殊に職務に對する忠實の觀念に至つては、實に憂ふべき程弛廢して居る。

總ての事業が完全に進まず、少しも擧らず、所謂全般的サボタージュの傾向があるといふのは即ち各人に於て完全な理想が缺如して居る爲めであると私は見るのである。成程中には其の點に就て十分宗教的、倫理的、哲學的に御研究なさつて居る方もあることは認むる。さういふ方は其の信する所に依つて十分お盡し願ひたい。一番困るのは何も信する所のない場合である。恰も磁石のないやうな船で航海して時化が來れば行當りバツタリで、終には自分許り暗礁に乗り上げて難船する許りでなく他の船と突き當つて破船させるといふに至つては困つたものである。故にどうしても日本の國民に向つて完全にして適當なる理想を定めしむるといふ時機が來つて居ると思ふ。何卒昭和御新政の詔書拜讀を願ひたい。其の中に明に共存共榮といふことを御推奨遊ばされてある。私は朝見式の時に聖旨を拜しまして、實に感激措く能はざるものがあつた。共存共榮こそ實に日本國民の理想たるべきものにして、將來の新理想は此所にあるべきであるといふ深遠廣大なる聖旨を深く感佩致した次第である。故に昭和二年一月二十四日貴族院壇上に於て時の首相に向つて、此の詔書の有難き恩召を何が故に國民全體に廣く普及せしむることをなさらぬのであるか、どうぞそれを實行せられたいといふことを警告した。昭和の國民としてどうぞ皆様此の有難い詔書を是非拜讀を願ひたい。幸に若し我國國民の理想といふものが一定

せられますならば、思想が安定善化するのみならず、階級闘争は勿論國際の紛争も解決することが出来る。共存共榮法則を實行するならば、日支問題の如きも立所に解決することが出来る。更に之を擴大しては列國の關係も圓滿なることが出来ると思ふ。尠くとも個人の安定、日常行爲の善化に就ては裨益する所が尠からぬと信するものである。

若し私の申上げたことに就て、皆様が採るべき所ありと思召すならば、成べく日常の實行に現して戴きたい。私は及ばずながら十數年其の實行に努め大に自からそれが爲に得る所があると實驗して居るものである。故に此の問題を提供して皆様に篤と御研究を煩したいと思ふのである。彼の日清戦争まではどうしても、日本を列國と對等の地位に上げせねばならぬ、日露戦争に際しては強大國の伍班に列して辱められないやうにして行かなければならぬ、といふ事に國民の理想があつたのである。然るに歐洲大戰に依つてそれが決濟され解決されたといふことになり、それ以來未だそれに代はるべき新理想がない爲に、大に思想の安定を缺くに至つたと思ふ。何か既にお在りになる方は別として未だお定めにならない方はお定め願ひたい。今日の話がお定めになる御參考にでもなれば、私は非常に有難く感謝する次第であります。暑い時に長々と拜聽下さつたことを感謝致します。(完)



579
270

